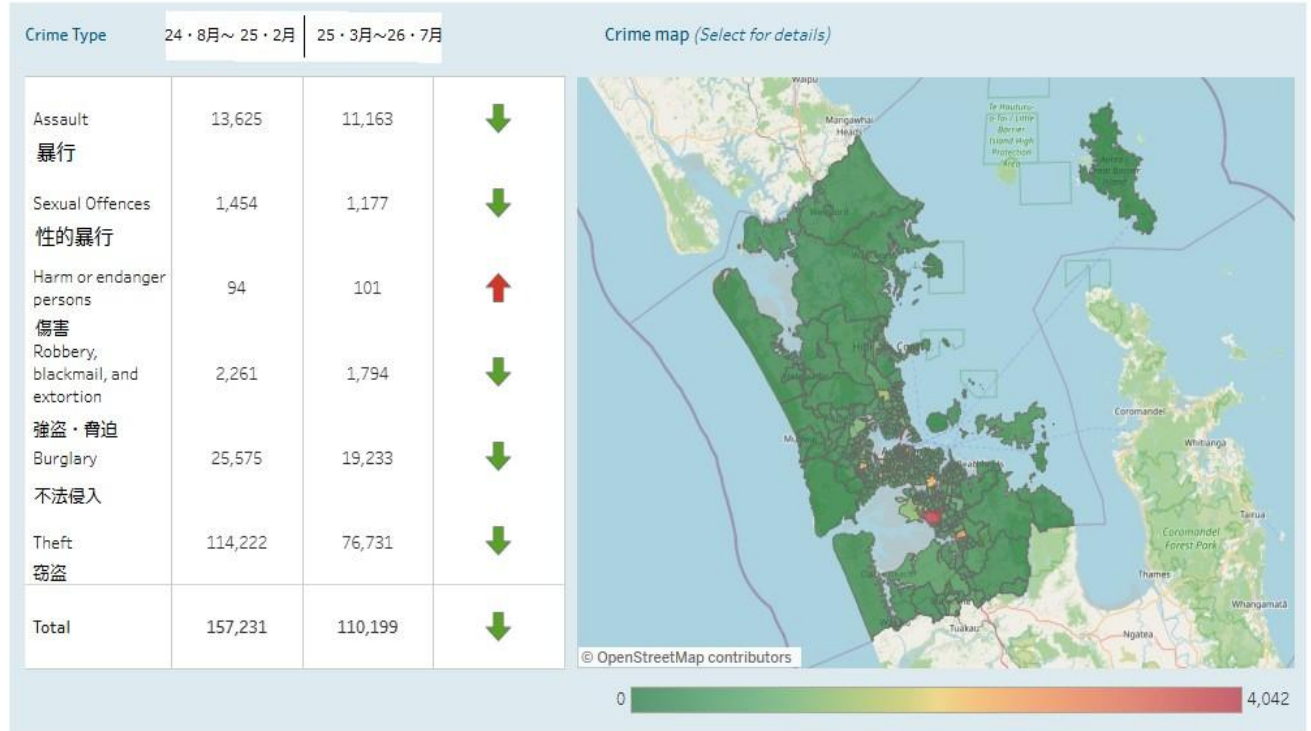


オークランド犯罪データとりまとめ(2026)

邦人被害加害事例（参考）

オークランド警察による犯罪データ

2025年3月～2026年7月



犯罪・被害者調査の最新結果によれば犯罪被害者は減少傾向にあることが示されており、2018年の調査開始以来、最低の数字となりました。暴力犯罪が減少し、オンラインによる詐欺事件も減少しています。

2026年2月に発表された調査データによると、2025年10月までの1年間で暴力犯罪の被害者数は2年前より 49,000人減少しています。

また警察への信頼と信頼度が69%と安定しており、ニュージーランド国民の約4分の3(74%)が、警察が重大犯罪に効果的に対処していると認めています。これは2024年の70%から増加しています。

ただし、ニュージーランド国内の犯罪発生率は、日本と比較すると高い傾向があります。ニュージーランドは世界平和指数で上位にランクされる国ですが、強盗は日本の約51倍、侵入窃盗は31.5倍、性犯罪は8.7倍と報告されており、旅行者や留学生も注意が必要です

旅行者や留学生は、特に以下の点に注意が必要です

- 夜間の一人歩きを避ける
- 貴重品を持ち歩かない
- 日本感覚で「置きっぱなし」をしない

- 車内に荷物を置かない
- 人通りの少ない道を通らない
- 現地の最新治安情報を常にチェックする

公共交通機関利用者の傷害事件が多発しています！



オークランドのバス乗客数は燃料問題の影響もあり、コロナ流行以前から増えており、オークランド交通局のデータによると、今年3月は過去最高のバス利用数を記録し、4月にも高い数値が続きました。一方で公共交通機関利用者の傷害事件が多発しています。

オークランドのバスに関する最近の事故

ATによると、オークランドの公共交通機関で「攻撃性、暴力、人種差別、差別、不適切な行動」の事件は昨年2161件報告され、大まかな平均は1日あたり約6件の報告事件となっています。

- 日曜日の午後6時ごろ、ノースショアのバス内で無差別な暴行が起こり、被害者の男性は重傷を負った
- 学生がアルバニーのマッセイ大学キャンパスからバスで帰宅途中、見知らぬ年配の男性に暴行と殴打を受けた
- 平日の午後6時ごろ、バスを下車した女性2人が、若い女に暴行される
- 平日の午後4時ごろ、学校帰りのバス停で、15歳の女学生が無差別な襲撃を受ける
- 土曜日の夜、バスを待っていた2人が15歳の少年達から脅迫を受け靴を盗まれる

幸いにも上記の事件では犯人が捕まり起訴されていますが、上記以外にも深刻な公共交通機関での事件が多く発生しています。

事件は深夜や人気の少ない時間帯ではなく平日の午後や利用客が多い時間帯に起きていることから、周囲に注意を払い、持ち物をしっかり確保し、必要なときに助けを求める方法を知っておくのも必要です。貴重品を見えないようにし、ヘッドホンに気を取られすぎないようにするなどの基本的な安全対策も重要です。

また、事件に巻き込まれないために、積極的に不穏な行動をする人との対立を避けるための行動をすることをお勧めします。その場所から離れるか公共交通機関から降りるのも一つの方法です。

AT (Auckland Transport) では利用者の安全確保のために、AT Mobile アプリから助けを求める方法をウェブサイトに掲載しています。 下記のリンクから情報入手してください。

<https://at.govt.nz/bus-train-ferry/staying-safe-on-public-transport>

ロードレイジの激化と年間運転時間

AA の全国調査によると、49%のニュージーランド人が過去 1 年で運転マナーが悪化したと考えており、特にオークランドでは 60%の住民がこの問題が増加していると回答しています。

調査では、ニュージーランド人の 10 人に 1 人がロードレイジ事件を経験しており、18 歳から 29 歳の若いドライバーがロードレイジを起こしやすいことも分かりました。

本当の問題はコロナ禍以降、運転に戻る人も以前より増加した事で渋滞が増えたことも影響しています。 ストレス、十分な水分や健康的な食事の摂取不足などがロードレイジの要因になる可能性があり、運転前に十分な睡眠をとることが重要です。安全に運転するには、前夜に少なくとも 5 時間の睡眠が必要です。

[NZ AutoTrader](#) の調査では 1 年間で運転するドライバーの時間に基づいて 15 ヶ国をランク付けした結果、ニュージーランドのドライバーは 7 位で、毎週平均 5 時間 58 分車内で過ごし、年間約 12 日 22 時間に相当することが判明しました。

全順位:

1. 南アフリカ — 週 10 時間 38 分(年間 23 日 1 時間)
2. アイルランド — 週 7 時間 23 分(年間 16 日)
3. オーストラリア — 週 7 時間 8 分(年間 15 日 11 時間)
4. カナダ — 週 6 時間 50 分(年間 14 日 19 時間)
5. イタリア — 週 6 時間 17 分(年間 13 日 15 時間)
6. ギリシャ — 週 6 時間 13 分(年間 13 日 11 時間)
- 7. ニュージーランド — 週 5 時間 58 分(年間 12 日 22 時間)**
8. アメリカ合衆国 — 週 5 時間 55 分(年間 12 日 20 時間)
9. ポルトガル — 週 5 時間 50 分(年間 12 日 15 時間)
10. スペイン — 週 5 時間 24 分(年間 11 日 17 時間)
11. ドイツ — 週 5 時間 21 分(年間 11 日 14 時間)
12. ポーランド — 週 5 時間 11 分(年間 11 日 6 時間)
13. フランス — 週 5 時間 10 分(年間 11 日 5 時間)

14. イギリス — 週 4 時間 48 分(年間 10 日 10 時間)

15. オランダ — 週 4 時間 38 分(年間 10 日 1 時間)

警察官を装う詐欺の増加

暗号通貨ウォレットやアカウント保持者を標的にする詐欺

最近、この種の詐欺が多数報告されており、被害者が数百万ドルの損失を被る結果となっています。

刑事を装い、「あなたの詳細や情報、身分証明書が逮捕された人物から見つかった為、暗号通貨をどう扱っているのか、そしてどのように保管しているのか確かめる必要がある」と話しかけてきます。その後、偽刑事は暗号通貨会社の担当者が被害者に連絡を取る手配をして、その担当者と名乗る者が、暗号通貨に似た偽りのウェブページを通じて、被害者にパスワード等を入力させる方法をとります。

銀行カードの不正使用

この詐欺はニュージーランド各地で起きています。警察を装って銀行カードの不正使用の調査と偽り、被害者に電話してきます。

警察は被害者に銀行口座が不正利用されたと信じ込ませて、暗証番号を聞き出し、カードを郵便受けに入れ「調査の為に回収する」と指示します。

回収されたカードから現金を引き下ろされることになります。

**本物の警察官が職務の一環としてあなたに連絡するケースもありますが、
警察官があなたのプライベートな財務情報を尋ねることはありません。
詐欺の手口ですので、相手の要求に応じず、すぐに電話を切ってください**

～NZ サイバーセキュリティセンターからのアドバイスは以下の通りです～

- 知らない番号からの電話、警察や IRD 等からの予期せぬ電話があってもあなたの暗号通貨ウォレット、銀行カード、PIN コード、パスワードを尋ねる事は決してありません。
- ソフトウェアのダウンロード、送金、デバイスやアカウントへのアクセス提供の依頼など、今すぐ行動するように促すよう指示された場合は特に注意が必要です。
- 自分の直感を信じてください。何か違和感を感じたり、あまりにも都合の良い話だと感じるなら、それはおそらく本当ではありません。
- 「警察捜査」を行っている人から連絡があった場合は、すぐに電話を切ってください。詐欺師は正規の警察の電話番号やメールアドレスを「偽装」できるため、確かめる信頼できる方法ではありません。不安であれば 105 に連絡し、そのような捜査が存在するか、確認を取ってください。
- 詐欺の被害者であればオンラインからまたは 105 に電話して警察に通報してください

日本人被害事例

暴行・窃盗

- 午後 3 時頃、電車の駅にある駐車場に車を止めた直後に 10 代のグループに車を囲まれ、鍵をかけていなかった運転席ドアを開けられ「刺すぞ」と脅され携帯電話を渡すように強要された。犯人はその後、顔面を殴り逃走したが、後日逮捕に至った。
- 自宅前に駐車していた車が盗難に遭い、パスポートのコピー、マイナンバーカードのコピー、国際免許証原本を盗まれた。

詐欺・売買トラブル

- Facebook で知り合った日本人から IPO (新規公開株) 投資を勧められ、個人情報 (住所、電話番号、日本の免許証、日本の銀行口座の詳細) を伝える。その後、投資資金の入金、保証金、優先審査、税金の支払い、口座の凍結解除等の様々な理由により合計数百万円を振り込んでしまった。
- Facebook の Marketplace で購入、2 回に渡り指定口座に振り込をしたが購入品は届かず、連絡もつかなくなった。

フラットでのトラブル・被害

- 日本のエージェントを通じて手配したフラットで、帰宅したら鍵が変えられており強制退去させられた
- フラットが見つかり契約する前に前金等請求され入金し、現地に行ったが部屋はなく、支払った金額は戻ってこなかった
- デミペアとして住んでいたが、男性オーナーに盗撮をされている事が発覚

日本人の加害事例

観光客が有罪判決を受ける

長期旅行中の日本人夫婦が宿泊していたホリデーパークで喧嘩になり、夫が妻に暴力を振った結果、宿泊客が警察に通報し、裁判手続きを経て暴行罪と警察公務執行妨害罪で有罪判決を受けた。

注意：ニュージーランドでは、家庭内暴力は重大犯罪と見なされ、警察はこの犯罪と真剣に取り組んでいます。旅行者であれ、他者に物理的、性的、あるいは精神的危害を加えることは違法です。

警察は虐待者を逮捕することができ、今回の件のように地方裁判所での裁判のうえ、罰金の支払や犯罪内容によっては服役を命じられることもあります。また日本では「しつけ」で通る程度の行為でも一般市民の目撃情報だけで告発対象になり得ます。お子様連れで旅行を計画されている方は特に注意してください。

日本人を標的とした大規模なポンジ・スキームの監督で有罪

警察局内の重大詐欺課(Serious Fraud Office)からの告発で、オークランド地方裁判所の陪審により、10 の罪で有罪判決を受け、これはニュージーランド最大級の投資詐欺の一つである数百万ドル規模の詐欺であり、国内外の多くの投資家は資金を取り戻すことができませんでした。

判決の言い渡しは今年7月から9月に延期になりました。

商売や取引相手が日本人だとしても不審な点があれば注意が必要です。お金をだまし取られたり、詐欺の被害を防止するためにも、警察では、借入れや投資の際に知名度の高い信用ある金融機関と取引するよう、呼び掛けています。

盗撮で有罪判決を受ける

あるレストラン経営者が、同居人を盗撮していたとして有罪判決を受けました。被害者は就労ビザで滞在し部屋を借りていた日本人女性ですが、共有スペースで盗撮の被害を受けました。